



# えんじゅ

春日市立春日小学校

校長室便り No.9

令和元年 7月 19日

文責：校長 福島

## よい子が育つ春日校



2日続けての発行となりましたが、皆様にお伝えせずにはいられないすてきな光景がありましたので書いています。

明日から夏休みという節目の日です。1校時に全校朝会を行いました。私は、「命」をテーマにした話をしました。たくさんのボランティアの方々が、毎日みんなの命を守るために見守ってくれていることや、夏休みの間は、自分の命は自分で守り、8月29日にみんな元気にまたここで会いましょうということをお話しました。

その後、5年生がこれまで頑張ってきたことを話しました。学年スローガンである「レッツゴー チャレンジ」の取り組みとして、1組の今村さんは委員会活動へのチャレンジを、2組の菅蒲田さんは学習へのチャレンジを、3組の松尾さんは運動会へのチャレンジを、4組の船倉さんは友達への声掛けのチャレンジを、マイクを使わずに大きな声で発表しました。

ところが、船倉さんの発表中にハプニングが起きます。風邪気味ということと、大きな声で練習したのでしょう、声がかすれていました。発表の途中で声が出なくなってしまいました。何度も繰り返そうとしますが、うまく声が出ません。マイクを持っていきましたが、小さな声もうまく出ません。そんな時、フロアから「頑張れ！」と励ます声がありました。その声で少し落ち着いたのか、マイクを使わずに堂々と最後まで発表することができました。4人とも立派な発表でした。ステージを降りる時も、しっかりと前を見つめ、堂々と歩き私の目の前に座りました。

すると、船倉さんの後ろにいた女の子が、何も言わずに船倉さんの背中をさすってあげるので、「だいじょうぶ？ 立派な発表だったよ。」心の声が聞こえてくるようでした。私は涙が出そうでした。朝会が終わった後には、隣にいた音楽委員会の男の子も船倉さんの肩をポンポンと叩いていました。

こんな素敵な子供たちが育っている春日小学校を、私は誇りに思います。